



令和6年能登半島地震 支援金・義援金についてのお礼とご報告

皆様からお預かりした支援金・義援金は、

406,153 円

集計期間(R6年1月5日~2月29日)



多くのみなさまの温かいお気持ちに感謝しています。支援金は災害復興等の支援活動へ、義援金は被災者の生活再建のために共同募金会を通じて分配させていただきます。

Q. 災害ボランティアって、どんな活動をするの？

「被災地でのボランティア活動に関心はあるけど、最初の一步をどうしたら良いのか分からない」など思う方は多いのではないのでしょうか。被災した地域や住民が、1日でも早く元の生活に戻ることができるようお手伝いをするを目的とし、力仕事から事務作業、心のケアまでさまざまな災害ボランティア活動があります。現在、能登半島地震で被害の大きかった市町では災害ボランティアセンターが設置されています。活動にあたっては事前登録が必要などのルールがありますので必ず被災地社協のホームページ等でご確認ください。

能登炊き出し元気アッププロジェクト

被災地域の福祉施設から炊き出しを希望する声が多く寄せられています。

食を通じて元気を届けたいとお考えの方は南あわじ市社協まで連絡ください。

Q. 災害ボランティアセンターってなに？

大規模な災害が発生した場合に、市からの要請を受けて、被災地の社会福祉協議会が中心となり開設され、被害状況をみながらボランティアセンターを立ち上げ、運営を行います。

支援の仕方は他にもあります！

被災地への支援は、現地に行ってボランティア活動をするだけでなくではありません。被災地でのボランティア活動のために募金することも立派な支援活動です。

また、被災直後の混乱が収まってきたら、被災地で生産されたものを購入したり、募金や観光も大切な被災地支援になります。自分のできることから被災地支援してみませんか？



～知る・認め合う・つながりあう～



「助けられ上手さん講座」を開催しました！

2月28日 中央公民館において、知的障がいの子どもを持つ親御さんで結成されている「おひさま隊」を講師に迎え、「助けられ上手さん講座」を開催しました。障がいのある子供の様子や特性を知り、どうすれば彼らの「助けて」の発信を理解し、認め、つながり、育てていけるのかをお母さんならではの目線でお話をしていただき、道具を使っただけの疑似体験を通して障がいを持つことを体験しました。



そこで、人それぞれ見方や感じ方の違いがあることを実感し、個性を認め合い、つながることの大切さを学びました。お母さんたちが地域の人たちに望んでいるのは、少数の専門家が関わり合っていく事より、たくさんの地域の人たちが見守ってくれることが何よりだと言われていました。

お互いに認め合うということは、障がいの有無、高齢者、病気の人、認知症を患った人など老若男女すべての人に共通することです。

ある時は助けたり、またある時は助けられたりする地域のつながりが必要であり、講座後、参加者は、伝えることや接することの難しさを感じながらも～知る・認め合う・つながる～ということが心に響いた様子でした。

また、講座の後は、神戸市の「NPO 法人フクロウの夢」の方に英字新聞で作る新聞紙バックづくりを教えていただきました。「就労継続支援 B 型事業所カムイチカブ」で作っているもので、販売もされているそうです。お帰り際、みなさんおしゃれなバックをお持ちになっていました。

南あわじ市社会福祉協議会

生活支援



コーディネーター



だより

発行

南あわじ市社会福祉協議会

〒656-0122

南あわじ市広田広田 1064

【TEL】 44-3007

【FAX】 44-3037

【MAIL】

info@minamiawaji-syakyo.or.jp



地域福祉フォーラム



「八木のヤギ牧場」の堂本秀幸さん、沼島100年計画～SDGs 実現委員会～の遠藤直子さん、堺聡さんにご登壇いただき、それぞれの地域での活動の様子を教えてくださいました。みなさん南あわじにほれ込んで移住されて来た方で、地域の活性化に一役買われています。また、それぞれの活動の根底には「子どもを地域で育てる」という視点が共通していました。前者の堂本さんは農業を通じて安全な食べ物を、後者の遠藤さんは今の子どもたちが体験する楽しいイベントなどを中心に地域を活動的にされています。

発信者の3名の方には、南あわじの「ステキ」をたくさん語っていただきました。ステキなところを発表されるたび、聞いているみなさんは、なんだか自分が褒められているようで顔がニンマリしていたのは見間違いでしょうか？(^O^)/

改めて「おらが南あわじ」を再発見されたようでした。

